

物流戦略研究会終了報告

物流戦略研究会

研究リーダー 糺 谷 昭 治

(和歌山社会経済研究所研究部長)

平成11年度11月から約2年半にわたって研究を行ってきたが、平成14年6月13日第12回研究会の報告書及び提言まとめ、及び7月19日に開催したセミナー「港と中国と和歌山を語る会」を開催して終了した。研究会終了報告として、この間の研究会やセミナー開催の状況と物流戦略研究会としての提言骨子などを報告する。

1. 研究会現状メンバー

主 査	小田和歌山大学学長
リーダー	糺谷社会経済研究所研究部長
事 務 局	矢田商工会議所課長 笠井和歌山大学経済学部助手
メンバー	和歌山大学 今井教授 佐々木助教授 大津助教授 商工会議所 坂口事務局長 西岡参事 社 経 研 (嶋渡研究員)
特別参加	国土交通省近畿整備局 和歌山港湾工事事務所 (三村係長)

2. 研究会・講演会・セミナー・視察研修・共同調査などの実施状況

No	区 分	開催年月日	議題・内容など	備 考
1	研究会	H11.11.11	研究項目、メンバー等について	
2	研究会	H12.1.14	調査研究資料の収集、検討他	
3	研究会	H12.2.21	物流・流通の現状と課題 (関係企業ヒアリング)	(株)新栄組 など

No	区 分	開催年月日	議題・内容など	備 考
4	研究会	H12 .4 .10	物流機能の整備について	
5	セミナー	H12 .5 .26	実物流データに基づいた物流研究手法など	三和総研： 金岡氏
6	研究会	H12 .7 .6	研究項目と研究担当について	
7	講演会	H12 .10 .26	最近の国際物流について（オムロン：本郷氏）	国際経済 交流推進 協議会と 共催
8	視察研修	H13 .1 .16	オムロン ロジスティッククリエイティブ(株)西部流通センター	
9	研究会	H13 .7 .6	和歌山県における港湾など物流実態と交通計画等の調査結果について	
10	研究会	H13 .10 .12	物流戦略の基本方針の検討その	
11	研究会	H13 .11 .30	物流戦略の基本方針の検討その	
12	現地調査	H14 .1 .28	和歌山下津港及び物流上問題がある道路など	
13	セミナー	H14 .4 .26	和歌山下津港の問題点と活性化施策について	日通総研： 小梶氏
14	研究会	H14 .6 .13	報告書審議 （最終研究会）	
15	最終セミナー	H14 .7 .19	物流戦略研究会最終セミナー 「港と中国と和歌山を語る会」	日本郵船： 木村氏 和大：今井 教授 社経研：梶 谷部長
16	共同調査	H13 .12 .26	和歌山下津港周辺地域交通流動分析調査WG	
17		H14 .1 .30	（国土交通省近畿地方整備局 和歌山港湾工事事務所の調査ワーキングに参加）	
18		H14 .2 .26		

3 . 提言骨子

本研究会は、和歌山下津港本港地区を陸海が一体となった物流基地として整備することを中心とした以下の様な骨子でまとめ、提言する。

（１）物流産業を和歌山の戦略産業とする背景

大阪湾の入り口に位置すると共に、京奈和道・第二阪和道など道路整備、和歌山下津港の整備、関西国際空港の整備による陸・海・空交通の要衝となる立地の優位性
グローバル化、即ち国際分業の進展により物流量、特に

トラックを主体の物流から船や鉄道を活用するモデルシフトや廃棄物をリサイクルするための運送（静脈物流）など、地球環境問題に配慮した物流に転換する必要がある。また、ITなどを活用した新しい物流システムの構築も必要とされている。

（2）新基本構想

和歌山下津港 本港を、コンテナに対応した海送物流拠点としてガントリークレーン・ストラルドキャリアー、CFSなど整備、機能強化する。なお、将来的には、北港水深を16m化し、神戸・大阪港に代替できる大型コンテナ船の寄港港を視野に入れて整備を進める。

産業用道路整備

- ・ 25 t 対応整備の促進など物流上問題のある道路の改善
- ・ 将来的には第二阪和道への連絡道路の整備



ITを活用した新しい物流ネットワークの構築

トラック陸送主体の物流システムから、船 - 鉄道 - トラック陸送を適切に組み合わせた物流ネットワークシステムをIT等も活用して構築する。

港湾活性化、交通渋滞対策など総合ソフト施策

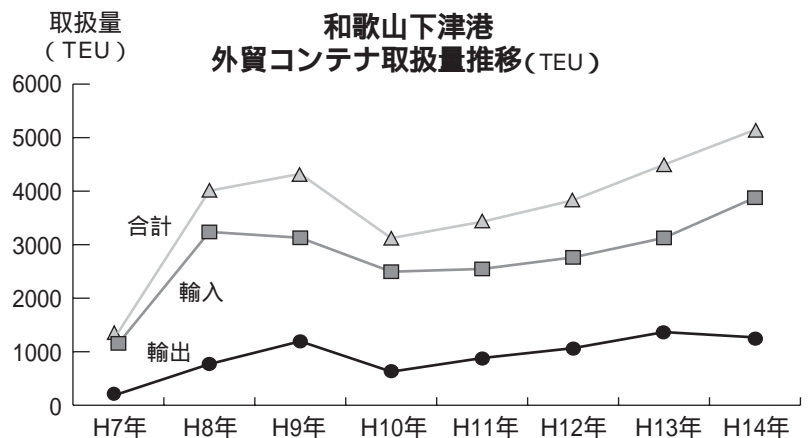
和歌山港を利用した場合の生産地から消費地までのトータルコスト調査と取扱量との相関を分析して、ポートセールスの具体的な目標を明確化 実施可能な施策をまとめ、実行する体制を整備する。

25t 対応以外に当面具体性のある道路整備は難しいので、TDM施策を中心とした交通関連施策をまとめ、実行する体制を整備する。

4．港湾物流関連調査研究等の進捗状況

(1) 和歌山下津港外貿コンテナ取扱状況

和歌山県港湾空港振興局が中心になって、積極的にポートセールスなどを行い、韓国航路が週2便 3便に増便できた結果、取扱コンテナ量は順調に増加している。



(2) 和歌山下津港活性化等物流共同研究会

韓国関連コンテナ取扱比率は70%を超えたが、中国関連コンテナはまだ数%に過ぎない。和歌山下津港活性化のためには中国航路、特に上海航路の開設が重要である。このため現在、以下の研究会を「和歌山大学経済学部 - 国土交通省 和歌山港工事事務所 - 和歌山県 港湾空港振興局 - 和歌山社会経済研究所」で立上げ、調査・研究を進めている。

和歌山下津港整備事業等の地域に与える経済波及効果の研究(H15年2月～)

和歌山県・市で港湾活用を活用した地域活性化の盛り
上がりには欠けるのは、県民や市民に分かり易く港湾の
経済波及効果を説明できていない事が一つの原因と考
えられる。そこで、具体的な事業内容、雇用内容も調査
した分かり易く、納得できる経済波及効果を算定しよ
うとしている。

上海航路開設のための基礎調査として、上海周辺 泉
南以南の L C L ・ F C L コンテナ貨物の流動実態調査
(H15年 5 月 ~)

官公庁の公式データのみでは実態が把握できないので、
船社や専門研究所とも連携した調査・研究コンソーシ
アムを構築し、調査を開始した。

改善型 T S L (テクノスーパーライナー) 活用可能性の
事前調査

本年秋から事前調査を進め、来年度から本格研究の予
定。